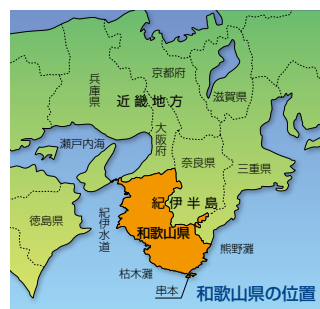


第2章 わかやまの生物



わかやまの名をもつ動物

本州^{さいなんたん} 最南端の和歌山県は、半島という地理的環境^{だんりゅう えいきょう}と暖流の影響を受け、さまざまな動物を育ててきました。現在、和歌山県には約7,000種類^{こんちゅう ぶんぶ}の昆虫が分布していることが確認されていますが、もっと調査が進めば、10,000種類を超す昆虫が発見されると言われています。

このように、たくさんの動物がすんでいる和歌山県には、本県にしかない種類や県内の地名^{ちな}に因んだ名前をもつ動物もいます。

ワカヤマヤチネズミとワカヤマムササビ

どちらも和歌山の名前を持った哺乳動物^{ほにゅう}です。ワカヤマヤチネズミは、県南部の山地^{せいそく}に生息するネズミで、東北地方に分布するトウホクヤチネズミに近縁の種類^{きんえん}です。本州の北と南の端に離れて近縁の種類が分布する、非常に珍しい種類^{めづらし}です。

ワカヤマムササビは、近畿地方^{きんき}に生息するムササビのグループに付けられた亜種名^{あしゆ}（種名よりも小さい分類単位）です。他の地域のムササビよりも体色が濃い^{こたい}ということで分けられましたが、個体により変化が見られ、他地域の個体と見分けられないこともあります。

和歌山県にちなんだ昆虫

昆虫の名前（標準^{ひょうじゆん}和名）には、最初に発見された地名を付けることがよくあります。とくにその地域でしか見られない種類については、その地名を付けた方が昆虫の特徴をよく表すので、種名に地名の付く昆虫は多く見られます。県内は、古くから高野山や那智山など有名な採集地^{さいしゅうち}がいくつかあり、多くの研究者が訪れているので、和歌山県の地名^{ちな}に因んだ昆虫もたくさん発見されています。

キエアバタコバネハネカクシやナンキナガゴミムシ、キイフトヒラタコメツキ、キエアカコメツキ、キイホソヒラタコメツキ、キイチビマメコメツキ、キイクビボソジョウカイ、キイチビヒョウタンゾウムシなど紀伊半島にちなんだ名前の昆虫もあり、これらも紀伊半島及びその周辺にしか分布しない種類です。このほかに、ナンキウラナミアカシジミやナンキコブヤハズカミキリ、キイオサムシなどのように紀伊半島南部で特化した亜種^{あしゆ}にも地域名が付けられることもあります。

和歌山各地の地名にちなんだ昆虫

チビゴミムシのなかまは、地中生活をしている目の退化^{たいか}したゴミムシで、移動力が小さいため地域別に違った種類に分化しています。特に和歌山県では、このなかまの研究が進んでいて、コカシメナシチビゴミムシ（すさみ町コカシ峠）、クマノメナシチビゴミムシ（新宮市熊野川町^{しんぐう くまの}）、カワベメナシチビゴミムシ（日高川町旧川辺町^{ひだか かわべ}）、オウトウメナシチビゴミムシ（大塔山系^{おおとう}）、リュウジンメナシチビゴミムシ（田辺市龍神村^{たなべ りゅうじん}）、カダメナシチビゴミムシ（和歌山市加太^{かた}）、ミサトメナシチビゴミムシ（紀美野町旧美里町^{きみの みさと}）な

ど多くの種類が分布していることが知られています。

また落ち葉の下や地中生活をするコバネナガハネカクシのなかまも、和歌山県では多くの種に分化していることが分かり、スサミコバネナガハネカクシ、コウヤコバネナガハネカクシ、ゴマダンコバネナガハネカクシ、オオトウヒメコバネナガハネカクシ、ナンキコバネナガハネカクシなど、県内の地名をもつ種がたくさん発見されています。

ヒゲボソゾウムシのなかまは、日本から24種類が知られていますが、限られた地域にしか分布しない種が多く、特に紀伊半島で著しく種分化しています。紀伊半島には24種中13種が分布していて、うち7種が紀伊半島にしかない種です。和歌山県には7種のうち5種が分布していて、ゴマダンヒゲボソゾウムシ、ゴマダンコブヒゲボソゾウムシという護摩壇山にちなんだ名前が付けられています。

これらのほかにも、限られた地域にしか分布しない種にその地域の地名がついた種がいくつかあり、コウヤササキリモドキやシラハマナガゴミムシ、オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ、タキモトクビボソジョウカイ（新宮市熊野川町瀧本）、ナチセスジゲンゴロウなどが知られています。

コウヤホソハナカミキリは全国各地に広く分布し、普通に見られるカミキリムシですが、高野山で最初に発見されたために、コウヤという地名を種名に付けられました。ナチアオシャチホコやナチグロコナジラミ、ナチコノハカイガラムシなども、各地に分布している昆虫ですが、那智山で最初に発見されたために、ナチという名が付いています。他にもミサトザイノキクイムシやオオトウザイノキクイムシ、ワカヤマザイノキクイムシ、コウヤケアブラムシなども県内で最初に発見されたので、和歌山の地名をいただいた昆虫です。



ミサトメナシチビゴミムシ



スサミコバネナガハネカクシ



ゴマダンヒゲボソゾウムシ



オオトウカギバラ
ヒゲナガゾウムシ



ナチセスジゲンゴロウ



コウヤホソハナカミキリ



わかやまの知識



そはやきちいき
【蘇速紀地域】

植物の分布区分を表す用語のひとつで、1931（昭和6）年に京都大学の小泉源一博士が提唱しました。西から蘇の国（南九州の古名）、速吸瀬戸（豊予海峡）、紀伊の国（和歌山県と三重県の南部）の三つの文字を組み合わせて出来た言葉です。この地域は中央構造線よりも南で、約1,700万年前の第三紀中新世以降海没していない歴史を反映して、中国大陸西南部と関連のある起源の古い植物や、この地で分化した固有種が多いことが知られています。また、このような植物の分布は動物にも反映し、多くの特徴的な動物を育んでいます。